第１３３回役員会・第５８回経営審議会　議事要録

日　時：２０２２年3月２２日(火)１４：００～１５：３０
会　場：Microsoft Teams によるオンライン会議
出席者：津田理事長、松尾副理事長、白川理事、古川理事、柳井理事、龍理事、中本理事、
　　井上委員、久保委員、柏原委員、小林委員、瓜生委員、松永委員
（オブザーバー）中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議　案
　１　令和４年度計画案について
　２　令和３年度第２回補正予算案について
　３　令和４年度予算案について
　４　研究不正防止関連規程の一部改正について（役員会のみの議案）

報　告
　１　大学機関別認証評価の進捗について
　２　２０２２年度入学者選抜試験の実施状況について
　３　２０２１年度卒業予定者の就職内定状況について

議案１　令和４年度計画案について

＜質疑応答＞　なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案２　令和３年度第２回補正予算案について

＜質疑応答＞　なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案３　令和４年度予算案について

＜質疑応答＞
[理事]
○　目的積立金について、２０２１年度予算と２０２２年度予算で取り崩しを行っているが、これは決算を行えばあまり取り崩しをしなくてもよいということか。
[理事]
○　２０２１年度については取り崩し金を全額戻すわけではなく、取り崩し金を少し使うことになる見込みである。
[理事]
○　大学の主な収入源は入学金や授業料ということか。
[理事]
○　一番大きな自己収入は入学金・授業料・入学検定料の約４０億円、市からの運営費交付金の約２，２００万円である。

［理事］
○　自己努力で自己収入が増えれば、その分市からの運営費交付金が減らされるという仕組みか。
［理事］
○　市からの運営費交付金は毎年減らされているが、恣意的に減らされているのではなく、減らずポイント・増やすポイントがあり、２０２２年度に１年かけて作成する次期中期計画をもとに、市とポイントの見直しを行うこととしている。運営費交付金が増えることは難しいが、減ることはなるべく防止したいと思う。
［委員］
○　秋田県の国際教養大学は競争力を付けて授業料の値上げを決断しているが、このようなことを検討することが次期中期計画のテーマとしてあがっていたりするか。
［副理事長］
○　今のところはそのような計画はない。国立大学では千葉大学が授業料の値上げを行っているが、学生全員の留学を目指すなど値上げした分新たな取組を行っている。本学では学生の経済的な部分ではそれほど裕福ではないと思っているので、今値上げすることは得策ではないと思っている。
［理事長］
○　本学は公立大学の中で学生一人あたりの経費が下から２番目という低い予算で運営を行っている。北九州市の財政が苦しいというのもあるが、福岡県内の他大学と比較しても学生一人あたりの経費は非常に低くなっている。人材を育てる北九州市立大学として北九州市へ働きかけていくので、皆様からもよろしくお願いします。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案４　研究不正防止関連規程の一部改正について（役員会のみの議案）

＜質疑応答＞　なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

報告１　大学機関別認証評価の進捗について

＜質疑応答＞
［委員］
○　基準１は法令適合性であるが、基準２・基準３は自ら評価してほしい部分を書くということか。また、以前の認証評価機関である大学基準協会であれば大学の長所が発表されていたが、今回の認証評価機関である大学教育質保証・評価センターでは、大学の長所はどのように発表されるのか教えてほしい。
［事務局］
○　基準２・基準３については、基準２は教育・研究の水準向上で、基準３は特色ある教育・研究の進展ということで、大学教育質保証・評価センターは公立大学の特色を重視した評価を実施することとなっており、本学は適切な評価をいただけると思っているので、今回、大学教育質保証・評価センターの評価を受審することとした。本学における評価結果の公表については、大学教育質保証・評価センターの評価結果が２０２３年３月頃に出るため、その結果を受けてどういう形で公表するかということを検討していきたいと考えている。
［理事］
○　基準２・基準３は本学の方で自由に選べることになっている。基準１についても、優れた点を記述する欄があるので、それに基づいての評価がなされると予想している。

［副理事長］
○　基準１は法令適合性であり、大学の特色を出すのは基準２・３となる。基準２は教育・研究の水準の向上であり、教育の質保証を問われるところとなり、基準３はそれぞれの大学の特色を出すところとなる。大学教育質保証・評価センターの考え方は、従来の他の認証機関とは異なり、大学の特色を出していき、法令適合性の部分は簡潔に行うという特色がある。認証評価機関の評価結果の公表の仕方については、大学基準協会は大学の良いところをホームページへ掲載しているが、大学教育質保証・評価センターは、ただ評価結果報告書がホームページに掲載されるだけではないかと思う。

報告２　２０２２年度入学者選抜試験の実施状況について

＜質疑応答＞
［理事］
○　地域創生学群はこれまで志願者数が多く、競争倍率も高かったが、今回、一般選抜で志願者数が昨年度より３割以上減っている原因が分かれば教えてほしい。
［事務局］
○　現在、原因の分析をしているところである。一つ考えられることに、出願の際に高校時代にどのような活動をしてどういったことを頑張ったのかを書く調書を出してもらっているが、コロナ禍でこの２年間高校での活動があまりできなかったため、急遽、共通テストの結果などを受けて進路変更をして地域創生学群の一般選抜を志願しようとしたときに、高校時代の活動が伴っておらず一般選抜を志願できなかったのではないかと考える。
［委員］
○　受験生の併願数が減ってきており、実質の第一志望群に入っていないと受験してもらえない時代になってきたが、前期日程の志願者数が減って、後期日程の志願者数が増えていることについて、どのように分析しているのか。
［事務局］
○　共通テストが難しかったというのが考えられる。難関の国立大学は前期日程の志願者数は減らずに、中堅の公立大学は前期日程の志願者数が減り、後期日程の志願者数が増えていると聞いている。
［委員］
○　受験生がコロナ禍であまりオープンキャンパスなどに行けず、知っている大学の中で早めに志願を決めているため、早めの広報が必要かと思う。

報告３　２０２１年度卒業予定者の就職内定状況について

＜質疑応答＞
［委員］
○　学生はよく企業のことを調べて就職活動をしているが、入ってみるとイメージと違ったということで辞める人が多くいる。就職支援活動の中で、新しい取組やもっと企業のことをよく知るために本学でやっていることについて教えてほしい。
［副学長］
○　学生がキャリアの意識を若年次から持つこと、インターンシップなどを通じて現場の雰囲気を体感することが大事になってくるため、学生を若年次からキャリアセンターとどう繋ぐか、インターンシップの参加率をどう上げていくかということで、今年度はレールに乗った上でインターンシップの参加率を上げることに取り組んできた。次年度以降、また、次期中期計画に向けての可変ポイントとして、基盤教育センターのキャリア系の科目とキャリアセンターの事業をどう連携していくかということで、キャリアセンター長と基盤教育センターの教養教育部門長で協議し、次のカリキュラムの中で実際に学生を誘導していくという仕組みを考えている。

これまでもジョブハンターなど学生主導の取組があり、核となる学生は育っているが、その経験をどのようにして一般の学生にまで広げていくかというのが課題となっている。